

- Miyake Y., Y. Katsuragi, and Y. Sugimura, 1968: Deposition of Plutonium in Tokyo through the end of 1966, *Pap. Met. Geophys.*, 19, 267.
- Miyake Y., Y. Katsuragi, and Y. Sugimura, 1970: A study of plutonium fallout, *J. Geophys. Res.* 75, 2329.
- 三宅泰雄, 葛城幸雄, 1970: 最近の日本における放射性塵の降下, *天気*, 17, 593.
- 三宅泰雄, 葛城幸雄, 1974: 最近の ^{90}Sr 降下物の起源, *天気*, 21, 639.
- 三宅泰雄, 地球環境の放射能汚染, 1972 *化学教育*, 20, 222.
- Miyake, Y., Y. Katsuragi, and Y. Sugimura, 1975: Plutonium fallout in Tokyo, *Pap. Met. Geophys.*, 26, 1.
- Machta, L., K. Telegadas, and R.J. List, 1970; The slope of surfaces of Maximum tracer concentration in the lower stratosphere, *J. Geophys. Res.*, 25, 2279.
- Nydal, R., 1968; Further investigation on the transfer of radiocarbon in nature, *J. Geophys. Res.*, 73, 3617.
- Telegadas, K., 1974; Radioactivity distribution in the stratosphere from Chinese and French high yield nuclear test (1967-1970), *US. AEC., HASL-281.*
- 杉村行男, 1976: 環境のなかのプルトニウム, *自然*, 31, 82.
- Volchok, H.L., 1975: Worldwide deposition of ^{90}Sr through 1974, *US. AEC., HASL-297.*
- ・それ以前の測定値は次を参照のこと
HASL-286 (1974), HASL-245 (1971).
- Young, J., and W. Farhall, 1968; Radiocarbon from nuclear weapons test, *J. Geophys. Res.*, 73, 1185.



特集 日本の自然

科学46巻4号, 岩波書店, 1976年

この特集は岩波書店から毎月刊行されている雑誌“科学”の一冊に掲載されたものである。内容は、貝塚爽平・松田時彦・中村一明：日本列島の構造と地震・火山。駒林誠・中村和郎：日本の気候——日本上空の気流と気候の特色——。阪口豊・高橋裕・鎮西清高：日本の地形——その生い立ちと特色——。吉良竜夫・四手井綱英・沼田真・依田恭二：日本の植生——世界の植生配置のなかでの位置づけ——。奥谷喬司・鎮西清高：日本をめぐる海とその生物。の5篇の論文である。

日本の自然については、近年環境問題として、あるいは自然災害の立場から文部省の特定研究をはじめ、学際的な多くの研究が行われている。しかし、問題は極めて多岐にわたり、その全貌をくまなく捉えるのは、むしろ不可能ともいえる。本特集の特色の一つは、各分野の最

近の研究成果の基盤に立って書かれていることは当然であるが、同時に日本の自然を見るのに、グローバルな視点に立って書かれていることにある。その結果、断片的事実の列記に止まることなく、読者の従来の知見を大いに一新させるものになっている。たとえば、本学会の会員になじみの深い、日本の気候についても、従来のたとえば、和達清夫監修“日本の気候”(東京堂)にはない新鮮さを感じるのには、日本の気候の特色を、まずグローバルな観点で捉え、それを成因論的にまとめた点が成功しているからであろう。詳しい内容を紹介する紙面はないので、見出しを列挙すると、日本の気候の特色、気候の帯状性、小笠原高気圧とシベリア高気圧、ヒマラヤ・チベット山塊と日本の気候、黒潮と日本海と日本の気候、日本列島の走向と雲、日本上空のダストと氷晶核、日本の気候区分である。

日本の自然については、私自身かつて一年間講義を持ったことがあり、気象以外の分野についても一通りの知識は持っているつもりであった。しかし今回の特集を通読して、全分野について改めて得るところが大きかった。気象学はもちろんのこと、他の分野についても、気象学会の多くの会員が一読されるとよいと思う。

(河村 武)